

- 1 日時 平成19年11月〇日(〇)
- 2 場所 広島市立〇〇中学校
- 3 学年・学級 2年〇組「〇〇コース」
- 4 題材名 Unit 6 「The Story of Silent Night」(New Horizon English Course 2)

○ 教材観

本課では、存在を表す表現の **There is [are]** と動名詞を扱う。

存在を表す表現は日常会話でもよく使う表現である。第1学年では、**Where's my bag? It's under the desk.** といった表現を学習している。この表現は、「〇〇は～にいる(ある)」という意味で、be動詞が、「いる、ある」という存在を表す意味を持ち、前置詞を使って存在場所を表す。これに対し、本課で扱う **There is** は、「〇〇には～がいる(ある)」という意味で、前置詞を使って場所を表すということは既習事項と同様であるが、表現したい主体が、人や物なのか場所なのかによってどちらの表現を使うのかが決まってくる。これらの共通部分と違う部分を考えることを通して、生徒に興味をもつことができる内容となると考える。

また、Unit 3で、動詞を名詞化する方法としてto不定詞の名詞的用法を学習しているので、それと関連させて動名詞を学習すると、生徒にとっても学習しやすい内容にすることができる。ただし、既習の進行形で用いられる現在分詞の用法と動名詞の用法とを混同することが予想されるので、区別の仕方についての理解が必要となる言語材料である。

内容としては、クリスマスの歌の *Silent Night* 『きよしこの夜』をめぐる話題で、前半はブラウン家の様子、クリスマスプレゼントにもらった本について、そして『きよしこの夜』の誕生のエピソードが取り上げられており、生徒たちには身近で理解しやすい題材であると考えられる。

○ 生徒観

本校では、第1学年から習熟度別少人数授業を行っている。基礎・基本定着状況調査のアンケートで、「少ない人数で学習するほうがよくわかります。」に「よくあてはまる」と答えた生徒は59.1%で肯定的な意見を持っていたが、授業評価のアンケートで学習意欲を尋ねた設問では、「授業に意欲的に取り組める」と答えた生徒は34.4%となり、学習意欲が乏しいという一面も伺われた。

本学級の「〇〇コース(基礎コース)」の生徒18人の英語における学習状況を見ると、「ほぼ学習内容を理解し、単語や簡単な文章を書くことができる」生徒が2割、「覚えている単語は言えるが、その語を正確に書くことができない」「単語の読み間違いをする」生徒が4割、「語彙数は少ないが、覚えている単語はほぼ言える、ただし、書くことができない」「ふりがなが付いていれば英単語を読むことができる」生徒が2割、「授業に対しての意欲が欠如したまま授業に参加している」生徒が2割である。このように、「〇〇コース」の生徒の習熟の状況は大きく4グループに分かれ、一つの学習集団の中の習熟の差が大きいことから、すべての生徒が意欲的に参加することができる授業の展開が特にこのクラスの課題となっている。

○ 指導観

指導に当たっては、「〇〇コース」の生徒が、学習に対して意欲をもって取り組むことができるように、第1学年の教科書の内容をワークシート化し、学習材に対する抵抗感を取り除いていきたい。また、学習する言語材料の使用場面を、実生活における自分と友だちの会話の場面で想起させることにより、言語材料に対する興味をもたせたい。さらに、3～4人の小グループで、インフォメーションギャップを埋めるといったゲーム感覚の活動を取り入れ、言語活動の活性化を図るとともに用法についての理解を深めさせたい。

個別支援が行いやすいという少人数指導の特性を生かし、生徒の活動場面を中心とした机間指導等を通して、すべての生徒に学習の支援をしたり、励ましの言葉かけを行ったりするようにしていきたい。

5 単元の目標

- ① 言語活動において、**there is[are]**と動名詞の表現を積極的に使おうとしている。[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]
- ② **there is[are]**と動名詞の表現ができ、その応答ができる。[表現の能力]
- ③ **there is[are]**と動名詞を用いて、話し手の意向を正しく理解できる。[理解の能力]
- ④ **there is[are]**と動名詞の形・意味・用法を理解する。[言語や文化についての知識理解]

6 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解
・言語活動で、間違いを恐れずに、学習した表現を使おうとしている。	・ There is[are], 動名詞を用いて、相手に自分の言いたいことを伝えることができる。(話す・書く)	・ There is[are], 動名詞を用いた表現を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができる。(聞く・読む)	・ There is[are], 動名詞の形・意味・用法を理解することができる。

7 単元の学習指導と評価計画

	学習指導	評価の観点				具体的な評価規準 (B)	支援
		関	表	理	知		
第1時	There is[are] Unit 6 Starting Out (本時)	●			●	・間違いを恐れずに、複数形を用いて、会話をしようとしている。 ・ There is[are] の構造を理解している。	・教師の後について言う活動を設けることにより、全ての生徒が活動に参加できるようにする。 ・たくさんの例を提示して、繰り返し練習できるようにする。
第2時	Unit 6 Starting Out		●	●		・教科書の内容を理解している。 ・ There is[are]の用法及び慣用表現を理解し、それを用いて買い物表現をすることができる。	・教師の後について言う活動を設けることにより、活動に参加できるようにする。 ・本文の単語を示すことにより、教科書の内容について確認する。 ・読めない単語や文について、読み方を示すなど個別に読む練習を行う。
第3時	Unit 6 Dialog Is[Are] there?	●	●			・間違いを恐れずに、Is[Are] there の文を使って、活動しようとしている。 ・ Is[Are] there? の文の構造を理解し、尋ねることができる。	・教師の後について言う活動を設けることにより、全ての生徒が活動に参加できるようにする。 ・たくさんの例を提示して、繰り返し練習できるようにする。
第4時	Unit 6 Dialog			●	●	・教科書の内容を理解している。 ・ Is[Are] there? の文の構造を理解している。(後日小テストを行う)	・読めない単語や文について、読み方を示すなど個別に読む練習を行う。 ・再テストを行い、できるようになったところを評価する。
第5時	Unit 6 Reading for Communication 動名詞 目的語	●	●			・間違いを恐れずに、動名詞を使って、活動しようとしている。 ・動名詞の表現を使って、対話をすることができる。	・教師の後について言う活動を設けることにより、全ての生徒が活動に参加できるようにする。 ・たくさんの例を提示して、繰り返し練習できるようにする。
第6時	Unit 6 Reading for Communication			●	●	・教科書の内容を理解している。 ・動名詞の構造を理解している。(後日小テストを行う)	・読めない単語や文について、読み方を示すなど個別に読む練習を行う。 ・再テストを行い、できるようになったところを評価する。
第7時	Unit 6 Reading for Communication 動名詞 主語	●	●			・間違いを恐れずに、動名詞を使って、活動しようとしている。 ・動名詞の表現を使って、対話をすることができる。	・教師の後について言う活動を設けることにより、全ての生徒が活動に参加できるようにする。 ・たくさんの例を提示して、繰り返し練習できるようにする。
第8時	Unit 6 Reading for Communication			●	●	・教科書の内容を理解している。 ・動名詞の構造を理解している。(後日小テストを行う)	・読めない単語や文について、読み方を示すなど個別に読む練習を行う。 ・再テストを行い、できるようになったところを評価する。

8 本時の目標

- 言語活動で、間違いを恐れずに、there is [are]の表現を使おうとしている。  
[コミュニケーションへの関心・意欲・態度]
- There is [are]の形・意味・用法を理解する。  
[言語や文化についての知識・理解]

9 本時の指導過程と評価

時間	過程	学習活動（発問と反応）	教師の指導（●）と支援（○）	判定基準と評価方法〔観点〕	個別支援
10分	つかむ	Greeting Good afternoon. How are you? What day is it today? What's the date today? What time is it? How's the weather?  Warm up 『わたしの夢』のスピーチ	○ 教師が元気よく話しかけることにより、元気よくあいさつするような雰囲気を作る。 ○ 一人一人の発音を確認し、個別に正しく発音できるように指導する。（曜日・日付） ● 曜日・日付をノートに1分以内に書かせる。 ○ 一人一人のノートを確認し、書けていない生徒にアドバイスする。  ● スピーチを聞きながら、メモをとるように指導する。	・ 正確に発音しているか。  ・ 正確に読んでいるか。覚えているか。	◎  ◎
15分	考える	There is[are]の導入  前置詞の復習 第1学年の教科書を読む  There is[are]の導入 絵を見て、何を言っているのかを想像する。 ・ There is a book. ・ There is a pen ・ There is a cat.  <予想される反応> ・ 本（ペン）がある。 ・ 猫がいる。 ・ 分からない。  There is[are]の意味の確認  友だちが突然あなたに向かって「あっ、お金があるよ」と言ったら、あなたはそれに対してとっさに何と答えますか。  <予想される反応> ・ 本当！ ・ うそ！ ・ どこに？ ・ へえ！	○ 1年生の時に使った教科書をワークシートとし、その空欄になっていることば（前置詞）が何かを考えさせることにより、学習内容に対する抵抗感をなくすとともに、既習事項を想起しやすくする。 ○ 課題解決のためのヒントとして前置詞を提示することにより、課題解決への見通しをもたせ、学習への意欲を高める。  ● 場所を表す部分は隠しておき、英文を読む。教師の後について言うように指示する。		

15分	<p>場所を表す語句の確認</p> <p>練習 絵を見ながら、練習する (教師の後について読みの練習をする)。</p> <p>Information Gap Activity</p> <p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• There is a bag on the desk.</li> <li>• There are two cats under the bed.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 既習事項を活用することにより、場所を表す表現について理解しやすくする。</li> <li>● 場所を表す部分を見せて英文を読む。</li> <li>○ 場所を表す部分は隠して、there is~を言わせた後に、場所の部分を見せて on the desk などと言う活動を仕組むことにより、先に何があるかを言い、どこにあるかを最後に付けるということを意識化できるようにする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>● &lt;3～4人のグループによる活動&gt; 自分のプリントの絵の情報を英語で他のメンバーに伝え、メンバーはそれを聞き取り、プリントの空欄を埋める。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 各グループを机間指導し、活動状況を見て、頑張っている生徒は褒め、つまずいている生徒には、そのつまずきに応じたアドバイスをすることにより、自分たちで活動を進めることができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 間違いを恐れずに活動をしている。[コミュニケーションへの関心・意欲・態度] &lt;観察&gt;</li> <li>• There is [are]の用法を理解している。[言語や文化の知識理解] &lt;観察&gt;</li> </ul>	◎
10分	<p>活動のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 今日の学習をまとめる。</li> <li>• 次の時間の予告をする。</li> </ul> <p>Greeting</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○活動の中で頑張っていたことを全体で評価することにより、次時への学習意欲を喚起する。</li> <li>○自己評価表を記入する際、自分が頑張ったことを意識するよう指示し、自己有用感を実感できるようにする。</li> </ul>		